

令和5年度 第2回 清瀬市地域自立支援協議会

議事要旨

件名 第2回 清瀬市地域自立支援協議会

事務局 福祉子ども部 障害福祉課障害福祉係

開催場所 清瀬市役所4階 研修室2

日時 令和6年3月4日(月) 午前10時～12時

出席者 委員11名

浅野 穂高、菊間 英子、熊谷 大、齋藤 靖之、  
鈴木 朋恵、富永 健太郎、長嶋 潤、贄川 信幸、古舘 秀樹、宮寺 孝  
山崎 昭浩(五十音順、敬称略)

欠席者 新井 勘資、岩澤 寿美子、(五十音順、敬称略)

会議次第

- 1 清瀬市障害者計画・清瀬市第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画の  
パブリックコメント結果及び答申について
- 2 各専門部会の活動報告及び次年度計画(案)について
- 3 精神保健福祉担当者連絡会(報告)
- 4 令和6年度会議日程について
- 5 日中サービス支援型共同生活援助評価について
- 6 その他(障害者計画調書評価)

## 審議経過

### 1 清瀬市障害者計画・清瀬市第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画のパブリックコメント結果及び答申について

事務局	<p>清瀬市障害者計画・第7期障害福祉計画・第3期障害児福祉計画のパブリックコメント結果及び答申について報告する。</p> <p>まず、パブリックコメントですが、令和6年1月9日～1月29日までの3週間、実施した。公表先は、市ホームページ、各地域市民センター(6カ所)、中央・駅前図書館、生涯学習センター、男女共同参画センター、児童センター、コミュニティプラザひまわり、清瀬けやきホール、市役所本庁舎行政資料コーナー、障害福祉課窓口を設置した。</p> <p>また、この期間は動画説明として YouTube 上にもアップした。動画視聴回数は合計で 135 回であった。</p> <p>結果は、今回は意見が無かった。傾向としては、今回の計画が障害者計画と障害福祉計画、障害児福祉計画の3本立てによる内容であったため、動画を考えても総量が多かったことは要因の一つと考えられる。他部署のパブリックコメントを見ても、同時期に実施した介護保険課によるものについても、0件であった。SNS や市報でも事前に周知は行ったが、周知方法については改めて課題の一つと捉えている。答申については、2月7日(水)に贅川会長と富永副会長より市長への答申を実施した。</p> <p>現在、パブリックコメントの結果については、ホームページ上でもアップしている。また、答申についても、3/15 号の市報掲載とホームページにアップする予定。計画書の製本については、3月中旬には成果物が納入される予定で進めている。</p>
会 長	答申にて市長に申し上げたのは、ニーズアセスメントが必ずしも十分にできていなかった。議論は行ったが、次期に向けては、更にニーズを確認して清瀬市の実情を踏まえた計画策定ができるように取り組んでいきたい。
副会長	別の自治体の地域福祉計画の策定委員会に参加したが、人口 20 万人規模の市でもパブリックコメントは0件であった。市民に近いところで計画を作成していきたいため、分析が必要だと考えている。更に効果的な方法があるかどうかを考えて次期の計画に臨む必要があると思う。
会 長	策定にあたっては、策定委員会の皆様、事務局、コクドリサーチにも大変な協力をいただいた。公表されたらご覧いただきたい。 続いて、各専門部会より活動報告及び次年度計画の案について報告いただきたい。

2 各専門部会の活動報告及び次年度計画（案）について

各部会長より資料1-1～1-4に基づき説明

<p>部会長</p>	<p>昨年に引き続き虐待防止研修を実施した。昨年より10名ほど増え、グループワークに時間を割いて行った。それにより、お互いの事業所についても知る機会となり事業所間の情報交換にも繋がった。</p> <p>もう一つは障害者週間について、新しい試みを行った。3事業所に協力してもらい、1階ロビーで事業所が作成している食品や物品を当事者も出向き販売した。市役所の近くにはない事業所は周知されていない場合もあったが、当事者が販売することで、どこまでかは分からないが、障害者への理解にも繋がったと思う。今後も、販売するというのを部会としても続けていきたい。一般市民の皆さんに販売するには数等もあるが、工夫するなど取り組みむきかけにもなると感じた。来年はブースの広さも相談しながら、複数の事業所で販売することも行っていき、参加する事業所も増やしていきたい。虐待通報に関する対応についても、意見交換は部会で取り組んでおり、来年度も大きく変えることなく実施していきたい。</p>
<p>部会長</p>	<p>部会を立ち上げてからは、緊急時の対応をメインに取り組んできた。昨年度は短期入所の体験利用が10名であった。今年度は見学も含め8名を相談支援事業所から短期入所事業所に繋げた。しかしながら、どうしても、短期入所事業所の数が少ないため、近隣市との繋がりを持つこともテーマにした。研修会も実施し、30名弱が参加しグループワークでの意見交換も積極的にできた。</p> <p>フェイスシートは、実際の事業所が使用し原本の完成に至った。今後は修正を行い、より使いやすいものを仕上げていきたい。</p> <p>課題点は、短期入所時に書類が多すぎる点である。法人が異なるため、統一書式は難しかったが、簡素化した取り組みは行い始めたところである。</p> <p>研修会では、グループワークを中心に行い活発な意見交換ができた。実際に体験利用した後に相談支援事業所に様子を報告する等、情報共有を徹底するというところで実施してきた。短期入所事業所の空き状況に課題があり、全ての事業所に電話確認をしなければならず、この点は次年度への繰り越しとした。</p>
<p>事務局</p>	<p>部会長不在のため、事務局より報告する。地域生活支援拠点の一部となるフェイスシートについて、記載内容を精査しシートを完成させたため、次年度より利用していく。</p> <p>市の地域課題・ストレングスの共有を目的にグループワークを実施。2月には介護保険制度への移行について勉強会を実施した。情報共有の場では、移動支援事業所やグループホームが足りず、支援に繋がらないという意見が多数上がった。</p> <p>次年度の課題としては、質の向上や水準の安定化として研修会の開催や地域情報の集約に取り組む必要がある。また、基幹相談支援センター設置に向け、部会として基幹に求める機能の検討が必要である。他市からの話を聞く</p>

	<p>機会も持ちたいという意見も多かった。災害時の支援についても検討を進めたいという意見もある。</p> <p>事例検討については、グループスーパーバイズの方法で2ケース実施した。アセスメントを深め、サービス以外でできる支援の気づきや連携が難しい事例の実際の取り組みを共有することができた。</p>
部会長	<p>支援力向上については、部会長の選出が遅れたため具体的な動きが今年度は取れなかった。しかしながら、部会内で検討し、アドバイスをいただく中でニーズに応えることができたかどうかを部会内で話し合うことはできた。次年度は計画的に研修などの取り組みを実施していきたい。</p> <p>関係機関との繋がり強化については、部会に特別支援学校の先生も入ってもらっているが、市内の学校との連携や福祉と教育との連携には課題がある。送迎についてアンケートを実施し、市内の学校に伝えていただいたが、その情報をどのように活用するかは今後の課題である。</p>
委員	<p>権利擁護差別解消部会では、販売会を実施したが、大きな販売会にしていきたいので、事業所には声をかけて欲しい。</p>
会長	<p>障害者週間についての広報活動はどんな感じだったか。</p>
部会長	<p>障害者週間として市報に掲載した。</p>
事務局	<p>市報の一面に加えてホームページにもアップし、活動内容等を周知した。</p>
部会長	<p>合理的配慮についても載せていただいた。</p>
会長	<p>市報やホームページを見てきたといった反応や感触はどうだったか。</p>
部会長	<p>新庁舎となりロビーに人が多かった。毎年積み重ねることにより、理解していただけるものかなとも思う。販売がゼロということはなかったため、市民との会話もでき、実施して良かったと思えた。今後も継続していきたい。</p>
副会長	<p>障害者週間の取り組みは、今回は場所が良かった。以前はクリア4階にて展示だけであったが、普及啓発という意味では人の目に触れる機会が増え、活性化も図れて良かったと思う。今後はあおぞら市のようなイメージで取り組めたら良い。ひだまりさんの野菜を買った方から、「どこで売ってるの」という声も聞かれたとのことから、慈善活動ではなく共生社会へのきっかけになると思った。普及啓発を念頭に更なる活性化を目指したい。</p> <p>研修について、通報は、ジレンマを感じるが学習としてもネットワーク作りとしても良かった。また、GHでは不適切対応もあり、一人対応のためしんどい思いをしているスタッフもいる中でGHを対象に虐待に至らないような支援力の向上の研修ができないかと考えている。</p> <p>一方で、差別解消部会でもあるため、差別解消について現状認識と調査と取り組みを合理的配慮も含め、どのように行っていくかは市の課題として検討する必要があると思う。</p>
委員	<p>地域生活支援拠点では、緊急時の受け入れを想定していると思うが、大規模災害があった時に福祉避難所みたいなものの計画はあるのか。施設の中だけでは受け入れられないような人数の場合、どのようにするのかと思った。</p>
部会長	<p>具体的な検討は地域生活支援拠点部会の中ではできていない。来年度の下打</p>

	<p>ち合わせでは話題に上がってもいたが、どの部会で取り扱うかも含めまだ検討はできていない。</p>
会 長	<p>話には上がってきているが、具体的な対策は協議会長からも下ろしているわけではないということになっている。夢的なことを語ると、一体化ということを考えると、障害理解が広がり、同じ避難所でも相互に助け合ったりすることが、普段の障害理解が災害時にも繋がってくれるようになれば良いと思っている。</p> <p>とはいえ、福祉ニーズのある人達に対して、災害時避難対応をどうするかは合わせて考えていかなければならないと思う。様々なニーズをサービスやフォーマルな部分でやっていくとどうしても限界がある。地域づくりという観点から、どのようなことをすれば障害理解が進み助け合うことができるのかということのを来年度以降になるが議論ができれば良いと考えている。</p>
副会長	<p>方向性としてはその通りである。それに向かう課題が一つあり、地域包括ケアシステムの根底にある自助共助公助だが、それが崩壊しつつある。地域福祉計画の中で行政と話していると、互助や共助は望めない状況である。行政も精一杯だし、地域づくりが難しくなっているのは事実である。</p> <p>まずは災害を考えたときに、緊急時の受け入れには段階があり、どこに集まりスタッフは誰が対応するのか、安定した段階で次のステップに繋げ正常化・安定化していく流れを作るスキーム作りを検討しなければならない。</p> <p>災害はいつ起こるか分からないので待ったなしだが、これが実現していけば会長のいう理想が実現すると思う。</p>
部会長	<p>避難所は小中学校の体育館などがあり、防災防犯課に聞いたところ、まずはその場所に行ってから次の段階で福祉避難所等に振り分けをされると言われた。避難計画を相談支援の人と行おうとしてもその道筋がない。実際体育館で段ボールベッドとかも行って見たが、そこに障害者が来て体育館のキャパで何人が入るのかと思うと無理だと感じる。地域の人がチームとなるが、その人達だけでは難しい。そうなると、障害者を持つ親からすると自助になる。行政も市民全員は対応できない。福祉避難所は大体が高齢者施設でもあり、そこに元気な障害者が行けるのかと考えるとマッチングしないため、まじめに考えると行ける場所はない。マンションに複数の障害者がいれば、そのマンションを単位として考えていかないといけないという意識である。障害福祉課ではなく、防災防犯課に聞きに行ったが、実際登録してもアナウンスはないため、登録するだけになっている。この話を協議会でしても解決はしないため、突き詰めると自助になってしまうと感じている。</p>
会 長	<p>清瀬市では防災計画があるが、防災防犯課で作成されており、この協議会だけでおさまる話ではないのかもしれない。しかしながら、どういうことを考えればよいか、どんなニーズがあり、どのようにすれば現状の仕組みもニーズにあった活用ができるのか、あるいは新たに別のことを考えなければいけないのかといったことも、本来は議論が必要なのかなと思う。想定でないこ</p>

	とをどこまでリアリティを持って対策が考えられるかということでもあると思う。次年度に向けて、位置づけはどうかは検討していきたい。
副会長	3つの大きな災害を我々は経験している。障害のある人に何が起きたのかを手繰り寄せてくる必要がある。日本はイメージを持ってビジョンを立てるのは苦手だが、経験しているものを手繰り寄せて何をどうするかを検討することが必要だということはあると思う。 拠点については、部会を立ち上げて3年になるが、現状分析が必要だと思う。俯瞰してみてどこまでできていて、今どの時点にいるかについての現状認識が必要だと思う。似たような都市と比較するなどして課題を抽出し、何をすべきかを明確にした方が良く、会長と協議する中で整備してほしいと思う。
部会長	副会長のおっしゃる通りであり、様々な意見は出てきている。他市と比べ進んでないこともあるため、改めて清瀬市には何が必要かを掘り下げて、緊急時以外のことも含めて取り組んでいきたい。
副会長	相談支援部会との関りも大きいため、拠点整備がうまく行えたら基幹相談支援センターは無理して作る必要はないという議論になるかもしれない。反対に、スーパーバイズしてくれる基幹相談支援センターが必要だとなるかもしれない。やはり、現状認識と何が必要か、目指すことは何かという議論は必要である。
委員	短期入所の受入れについては各施設に判断を委ねる形となると、なかなか進まないのかなとも思うが、拠点としてここまではお願いしたいといった目安はあるのか。契約書や重要事項説明書、薬の管理や投薬支援の同意書、緊急搬送時の個人情報の同意書、預かり金に関する書類なども必要だと思う。アセスメント、医療関係、服薬内容、てんかん発作の有無、集団生活の場では感染症の項目などもあると思う。支援学校や通所先で健康診断を受けている場合は、施設として求める項目が無くてもそれで良しとするのか等、各施設の判断に委ねると、進まないこともあるのかなと思う。部会としておおよその目安があると検討しやすいと思うが、その辺りはいかがか。
部会長	アセスメントはフェイスシートで完成させた。健康診断については、1か所で網羅できなかつたりもするため、ここまで受けてくださいということは部会では示していない。その為、確かに法人の判断に委ねる形になっているが、それぞれの法人で共有する形でのすり合わせはできるかなと思う。現状としてはここまでとなっている。
副会長	フローチャートみたいなものはあるのか。
部会長	各法人ごとになっている。一般的には健康診断は必須項目だと考えている。また、薬を預かる同意書だったり、細かいことも法人後の規定が異なっている部分はある。
副会長	例えば、わかば会の職員がひだまりに行く等の同行が認められるようなことがあってもいいと思う。
部会長	わかば会からも話はあつたりしている。事業所単位でお互いが可能であれば

	良い取り組みだと思う。
会 長	体験・見学が今年度8名というのはニーズのある人の何パーセントになるのか。本人のニーズ先行の場合、少し柔軟に考えていく必要があるのかなと思った。例えば ACT での緊急時の対応は、チームが家に行きそこでサポートを行い、家族がレスパイトするというもので、住み慣れた環境の中で必要な時は利用できる短期入所事業所があり、繋がりも持て情報共有の仕組みもあるということは選択肢の一つとしてありなのかなと思う。今後進めるにあたり、何ができるのかを考えていく必要があると思った。
副会長	東京都の資料を見ると、令和6年度には地域生活支援拠点整備が殆ど完了するというようになっていたと思うが、何をもって完了となっているのか。
事務局	面的整備が多機能型かという中で、清瀬は面的整備を進めている。また、緊急時の受け入れも含め事業所にも協力していただいている中で、現在進行形で取り組んでいるだろうという認識のもとでの判断と考えている。
副会長	俯瞰してみると道半ばであるため、ゴールを設定する必要があると思う。何をどう作るかは清瀬の地域課題にも関わり、整備をどこまで行おうとしていたかについては整理しながら粛々と進められたらと思う。
会 長	公表している事実はあるても、いつまでに何を達成すればよいのかについては、ロードマップというか可視化していかないと、できているかどうかの判断もできないため、協議会会長として示していきたいと思う。
副会長	基幹相談支援センターについて、ゼロから作り上げた他市の取り組みを聞くことをやらなければいけないと思う。今の障害福祉課で機能と役割を担っているかどうかも含めて、本当に設置が必要か、必要なら何を求めるのか、更にはどこが担えるのかについても、スケジューリングを行う中で議論を進めていく必要があると思う。本格化するのかしないのか、するなら舵取りを会長がどう判断するのか、選択が迫られていると思う。
会 長	今年度、部会にお願いしたのは、事例検討を議論する中で地域課題は何なのか、ストレングスは何なのかというところを見えるようにして欲しいとお願いしていた。清瀬市の現状が、当事者のニーズ、支援機関のニーズ、支援者ニーズと対応している仕組みがマッチしているのか、していなければそこに基幹のニーズがあるのかもしれない。要望がイコールニーズではないため、本格的に行うには、何をどうするかを明確にした上で皆様にもお知恵をいただければと思う。
副会長	一般的に必要な基幹の役割が清瀬市になれば作っていかねばならず、それにプラスして地域課題がある。スキルアップする機会や困った時に相談する場所がないといったことも含めて、一般的なものと地域課題と絡めて同時進行で行っていかねばいけない。
会 長	子ども部会についてはどうか。部会長の選定が遅れる中で、議論してもらい本年度取り組んでもらった。放デイや送迎に関する議論が多かったように思う。今後どのようなことを議論したら良いのかを話してもらえたらと思う。
副会長	意見交換の場になっている側面があり、部会でやることなのかなという疑問

	<p>はあった。意見交換の場は大事であるが、本当にそれでいいのかなという思いがある。例えば、ブレインストーミングの機会やグループディスカッションを行いブレストして課題抽出したらよいと思う。困難ケースについてどのように支援するかという疑問が湧いてくれば、それをどう対応するかを考えることが支援力向上にも繋がると思う。送迎についても、部会員と共有できているかどうか、できていれば課題を出し合い整理した上で解決するために何をするかを取り組んでいけばよい。その為には、意識化、課題抽出を行うことが必要だと思う。</p>
会 長	<p>議論は色々行ってきたが、難しいよねという現状の確認になっている。そこをブレインストーミングしかりどう議論していくかという会の持ち方を提案したり一緒に議論することが必要だと思う。</p>
委 員	<p>放デイの送迎の情報共有はどういう結果だったのかを共有して欲しい。また、医ケア児や重心児の状況について、学校では受け入れのガイドラインができてきているが、保育園での受け入れは進んでいない状況を把握している。そういったことも含めた検討の場も必要だと思っている。</p>
部会長	<p>送迎の現状は市内に8事業所あるが、竹丘から中里の学校は下校は同時だが車が1台しかなく、少し待ってもらう現状がある。待機児が出た時に学校としてどう対応できるかは学校によりまちまちである。敷地内にある学童で対応してくれるところもあれば学校の範疇ではないのでそちらで検討してくださいという所もある。今後も支援級は増え、普通級の子も受給者証が出れば受け入れしているため、迎えに行く場所が多く回り切れない事業所がある。学校によっては担任が放デイを知らなかったということもあり、周知していきたいが、親御さんが望まないこともある。とにかく送迎をするにしても単一事業所では限界がある。そのため、学校ではどんな対応ができますかというアンケートを取らせてもらった。</p>
会 長	<p>何でも放デイでいいのか、サービス以外の枠で対応できないのかという視点も必要ではないかと思う。ストレングスの視点も必要で、課題抽出とストレングスの抽出も議論を行って欲しいと思う。</p>
部会長	<p>各小学校に放課後子ども教室というものがあり、放デイに入れなくて子ども教室にくる子もいる。送迎で待たせるということまでは学校では責任を持たないと思う。子どもの特性に合わせて試行錯誤しながら対応してくれているため、そこを利用して待つということもシステム的にできるのであれば一つのヒントになるのではないかと思う。週5日、給食がある日なら利用できる。学校内にあるため、担任の先生とも情報共有でき、親が働く働かないも関係ない。その為、放デイの人も知っているといいのではないかと思う。</p>
副会長	<p>質問として、その場に官民共同で法人スタッフが行って支援することは可能か。</p>
部会長	<p>支援員として応募してもらい、ダブルワークが可能であればできるかもしれないが、そこまでは分からない。市としてもそこまでの事業としては考えていないと思う。対応が困難なお子さんは専門的な支援ができない可能性もあ</p>



	<p>るため断られることがあるかもしれないが、そういう受け皿があるということは知っておいてもらいたいと思う。放デイの職員の中には入れないが、もしかしたら放デイを利用しているお子さんが、そこを1時間だけ必ず週何回か利用するとして、お迎えに行くのが個々の職員とはっきり分かれば、そこでコミュニケーションが取れるとは思う。ひとつの案としてヒントではあるが、そういうことができないかと思う。</p>
委員	<p>教員も超過勤務がすごく、残業代も出ないが、80時間以上が1割以上おり、45時間以上も半数以上いる。都立は15:45まで付きっ切りであり、その後に会議や翌日の準備を行っている。放デイの方からは1時間見て欲しいと要望があったが、丁重にお断りした。もちろん緊急な場合は可能だが、毎日となると実情は厳しい。もう一点は責任問題があり、登下校の事故は学校責任となる。サービス事故扱いとなるため、学校としては確実に保護者にお渡しする、自主登下校できるのであれば自主登下校をしてもらうというように確実にできないといけない。特に配慮が必要な児童生徒を受け渡す時には、より配慮が必要になる。もし市に予算があるのであれば、一時預かりの場所に集まってもらいそこに放デイの人が迎えに行く等、責任をもって行ってくれる所があれば非常にありがたいと思う。</p>
会長	<p>福祉と教育の連携について、双方の観点から見えてくることを更に協議しながらどのように進められるかを考えていく必要があるかと思う。</p>
副会長	<p>医ケア児の問題は議論に上がっているか。</p>
部会長	<p>実際に受け入れを行っている事業所が少なく、1か所あるが医ケア児専門ではなく要望に応じて対応している。ニーズがあるとは聞いたこともあるが、議題に上がるほどには実際に上ってきてはいない。</p>
会長	<p>対応している事業所が少なければ、部会の参加メンバーから議題に上がることも少なく、そもそもニーズがどの程度あるのかといったことも、それが受け入れ困難であればどうした理由から困難なのか、どのような対応が求められるのかといった議論が必要になってくる。</p>

### 3 精神保健福祉担当者連絡会(報告)

事務局より、精神保健福祉担当者連絡会(報告)資料2に基づき説明

会長	<p>1回目と3回目に参加したが、3回目の事例検討での全体討議の中で、問題焦点型の検討になっていたため、ストレングスに目を向けてもらえるように問いかけをして、その中で議論をしてもらうようにした。どうしても無い無いというところで議論をすると、「難しいね、大変だね」という問題焦点型になってしまうため、ぜひ一つひとつの議論でもストレングスに焦点を当てていただきたいと思う。</p>
----	--

#### 4 令和6年度会議日程について

事務局より、令和6年度会議日程について資料3に基づき説明

会 長	現時点での予定として認識してもらえればと思う。事務局会議でも話したが、事務局会議の日程が9月の後に2月に飛んでいたり、協議会本会議が年2回で良いのかといったところもあり、協議という趣旨からすると事務局会議で議論して、本会議が報告承認の場になっていないかとも思う。いたずらに会議を増やすつもりはないが、予定としては認識していただき、来年度の実施については改めてお示しできればと思う。
-----	--

#### 5 日中サービス支援型共同生活援助評価について

わかば会より資料4に基づき説明

会 長	地域住民との交流のところで、茶話会を今年度できなかった理由は。
わかば会	交流事例については、何をしたというよりも、散歩の中で地域住民の方と挨拶をしたり立ち話をしたりといった、日常の中での交流は多々あった。その点については、改めて加筆していく。
会 長	外出の機会があり、そこでの地域住民との交流の機会があり、行ってきかともあるため、次年度はより良い形で行っていきたいということだと思ふ。
委 員	項目7の利用者の権利擁護等への配慮についての中で、利用者のプライバシーに配慮した支援の箇所、個人情報ファイルは保管・管理しているとのことだが、保管・管理の仕方はどのようにしているのか。例えば鍵のかかったところに保管しているとか、電子形態であればアクセス権限をかけているとかパスワード設定をしているとか、どのようにしているのか。
わかば会	事務所内で鍵のかかった場所に保管しており、そこには利用者は入れないようにもなっている。この点も加筆する。
会 長	加筆してもらおう箇所は加筆してもらい、協議会としてはこれをもって認めるということにしたい。

#### 6 その他（障害者計画調書評価）

事務局より、障害者計画調書評価について資料5に基づき説明

会 長	それぞれが行っている可視化された情報になっていると思うため、次の議論に活かすための資料としてご覧いただければと思う。その中には、この評価軸で良いのかといったこともあろうかと思うため、直ぐには変えられるかどうかは分からないけれども、必要な意見として検討していければと思う。
-----	---

会 長	最後にご意見をいただければと思う
委 員	様々な議論がなされているのだなと思った。
委 員	<p>以前討議したこと、例えば避難所や基幹相談支援センターについての議論は今までも結構行ってきた。避難所も、仕組みづくりや現状がどの程度活きているのかということは、振り返るとどうなっているのか、時間もかけ考えをまとめたが、現在に活かされていないと思う。委員は変わるため、現委員がその辺りを知っているかどうかとなると、その当時のことをお判りいただけていない部分があると思う。今後積み重ねていくことについては、以前考えていたことを今に生きるような協議会であったらよいと思う。他の協議会の委員も行っているが、全体の回数が少なく、十分なのかと感じている。知恵を出し合ってより良い協議会になっていければと思う。</p> <p>少し話は違ってくるが社会貢献事業協議会はご存知か。一生懸命活動はしているが、あまり知られていないと思う。同じように自立支援協議会も長く行ってもあまり知られていないように思う。パブリックコメントが0ということの分析も含めて、自立支援協議会をもっと知ってもらうことが必要だと考えている。個人的には協議会の回数を増やしたいと考えている。</p>
委 員	今年度初めての委員であったが、自立支援協議会の役割について抽象的に理解しているという所で、実際の取り組みとしては具体的な物はまだ示し切れしていない。立場としては活動の中で色々な意見を伝えていかなければならず、自覚もしなければならぬが、中々意見を発することが難しい状況もあったと思う。回数の中にも含めて果たしていかなければならないと思う。
会 長	どうしても、報告・質疑、じゃあ次という流れになってしまっていたところもあるため、進め方も含めて次年度も模索していきたいと思う。
副会長	<p>精神の連絡会について、自分が会長時にも部会化できないかと思っていた。会長も2回参加してもらっているが、医療的な議論だと思う。部会に引っ張るには、福祉のテーマにしていく必要があると思う。福祉の視点を持って検討していくことが部会で可能かどうかということがある。</p> <p>もう一つは日程の件について、諸般の事情があって2回になっている現状がある。ただ、部会が活発に議論しているものをどこで報告するかと考えると、最初に課題設定をした上で、中間設定も必要だと思うので、部会長から中間報告をしてもらい、我々もコメントをしつつ本会議に繋げていくという中間報告の位置づけが必要だと思う。</p>
会 長	部会があり本会がある面もあるため、事務局会議も含め参加いただきたいと考えていたところであった。具体的な仕組みについては、今いただいた意見や回数も含めて考えていきたいと思う。
委 員	精神保健福祉連絡会は毎回参加させてもらっているが、一番部会が必要だと思う。新たに部会として設置してもらえればと思う。
会 長	参加してみてそのニーズはあるなと感じているため、その位置づけも含めて来年度は検討していきたい。これで第2回清瀬市地域自立支援協議会を閉じたいと思う。ありがとうございました。

